

平成20年度 遠賀川水系河川等災害復旧事業費採択 ～ 平成20年6月出水の傷跡 地域の安心・安全に向けて ～

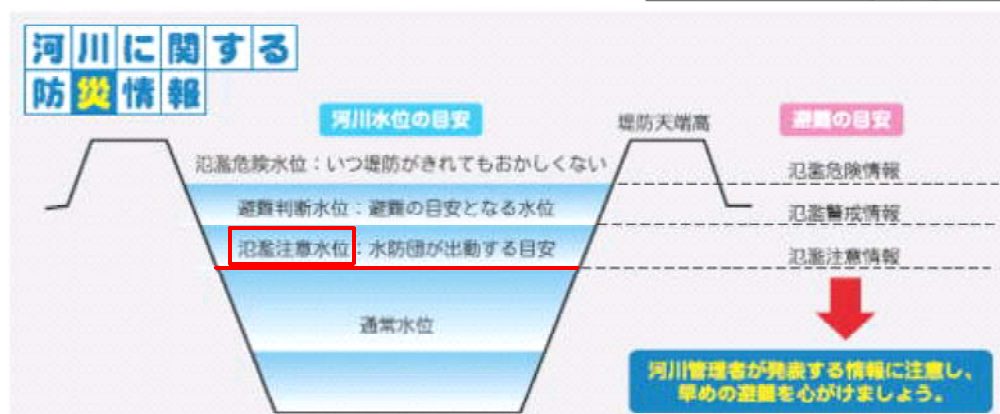
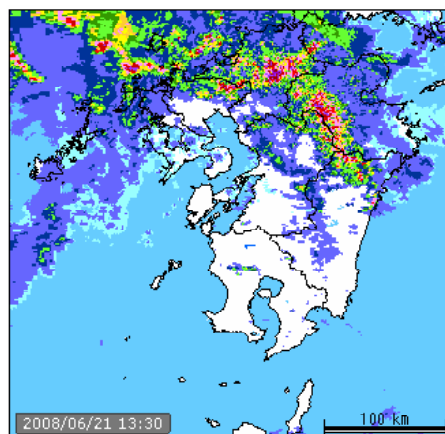
遠賀川水系では、平成20年6月19日～22日の梅雨前線性の豪雨に伴う洪水により、遠賀川支川中元寺川中流（田川市川宮地区後藤寺線鉄道橋下）の川宮集会所側河岸が約130mにわたって崩壊しました。また、遠賀川上流（現嘉麻市、旧碓井町西郷地区）ではチシャノ木堰（床止め）堰長49mの大部分が流失する災害が発生しました。

このため、遠賀川河川事務所（国土交通省）では可能な限り早期の復旧を目指して河川等災害復旧事業（約3億円）を申請し、平成20年10月1日付で採択されました。

これを受け、2009年度完成を目指し、地域の皆様の安心・安全を守るため、出水の傷跡治療のための災害復旧工事へ本格着手することをお知らせ致します。

■平成20年6月19日～22日出水概要

梅雨前線の南下に伴い19日から雨が降り始め、添田町の中元寺雨量観測所で連続雨量が149ミリに達し、特に21日13時～14時までの1時間に70ミリという短時間での非常に強い雨を観測しました（降り始め19日～22日までの総雨量316mm）。今回の降雨により4箇所の水防警報対象水位観測所（大隈（嘉麻市）、川島（飯塚市）、日の出橋（直方市）、春日橋（田川市））で水位が急激に上昇し氾濫注意水位を超える水位を記録、田川市川宮地区において河岸の石積護岸や土羽護岸が崩壊し、嘉麻市西郷地先においてチシャノ木堰（床止め）の大部分が流失しました。

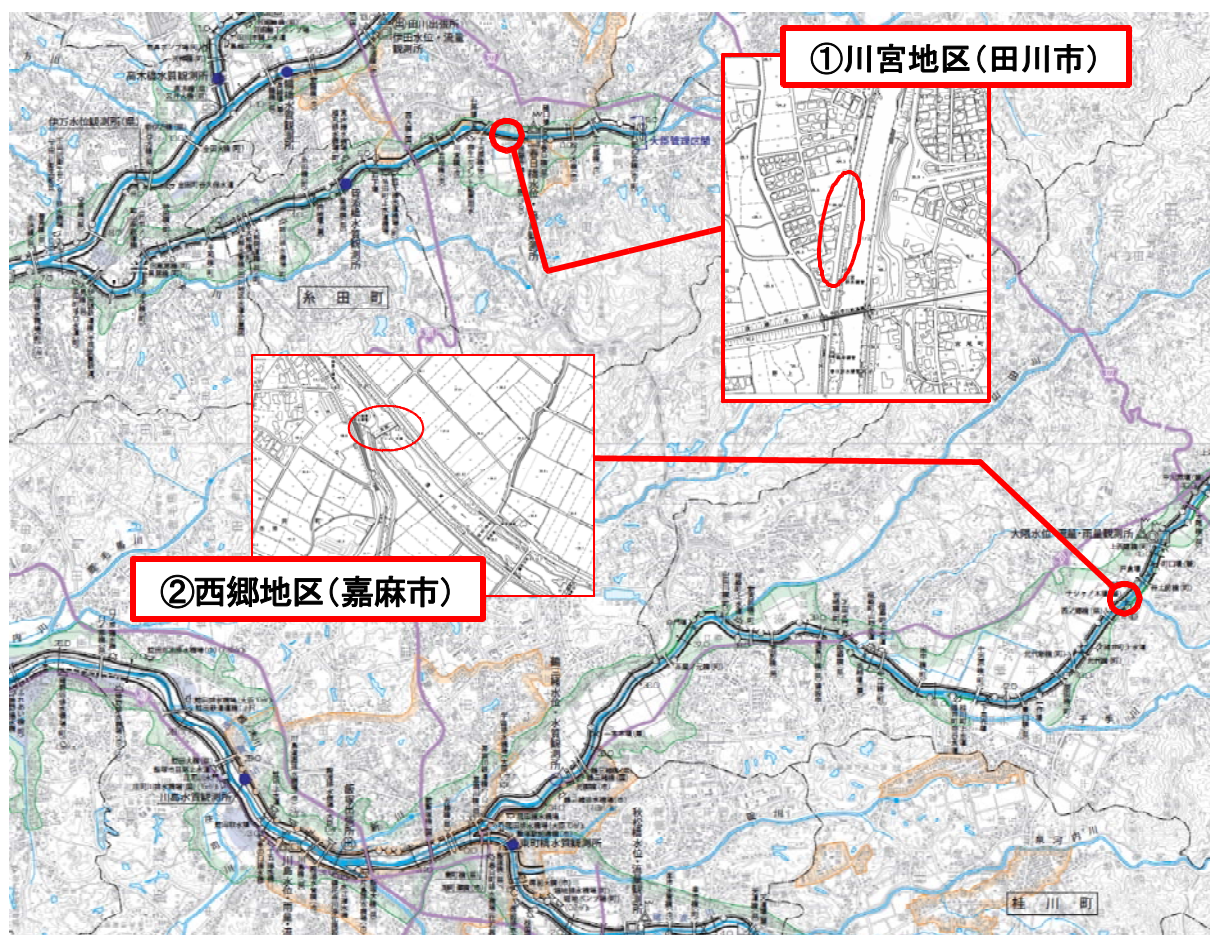


（出典：国土交通省HP及び国土交通省統一河川情報システム）

● 問い合わせ先

国土交通省 遠賀川河川事務所	TEL 094 9-22-1830
技術副所長	ふかまち 深町（内線204）
工務課長	やなぎた 柳田（内線311）

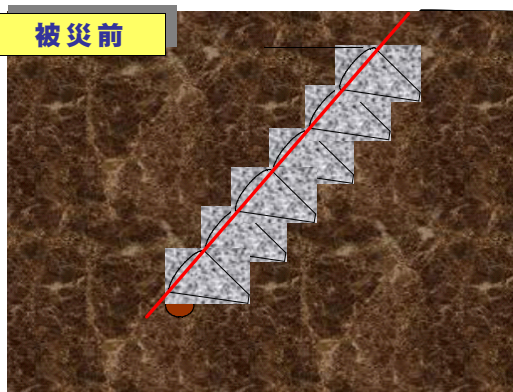
■遠賀川水系河川等災害復旧事業費採択箇所 被災状況



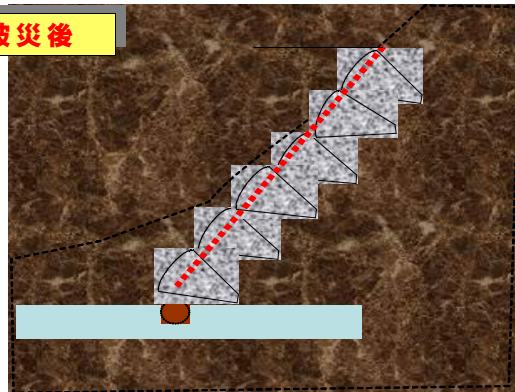
①川宮地区(田川市)



被災前



被災後



◎原因と現象

出水による急激な水位の上昇に伴い石積み基礎部と法面の土砂が洗い流されました。

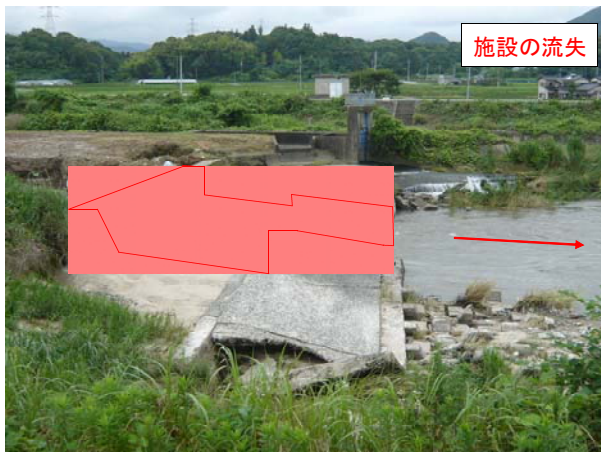
その結果、土砂の法面は大きく削られ、石積みは基礎を失い不安定な状態となりました。

◎復旧と対策

土羽護岸流失部は石積み護岸タイプへ改善し、崩壊した石積み護岸は背面の土砂を入念に締め固め、基礎部を改良し再度積み直しを行います。

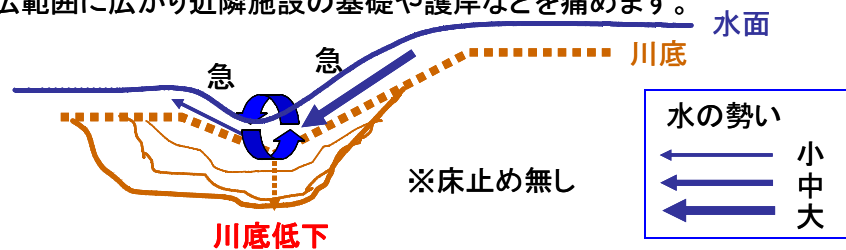
②西郷地区(嘉麻市)

・・・チシャノ木堰（河川管理施設：床止め）

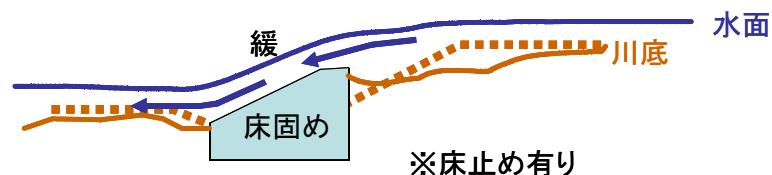


床止めの機能

・川底の段差が大きいと水の流れが落ち込んで、川底の土砂を削り浚うため将来的に川底が低下します。川底が低下を続けると次第に低下傾向が広範囲に広がり近隣施設の基礎や護岸などを痛めます。



・床止めを設置することで川底の落差が抑えられ、流れを弱めるため急激な低下が起こらず川底の高さを一定量維持できます。



◎原因と現象

チシャノ木堰（床止め）は築造年代が古く補修等で延命しておりましたが、長年の流水により少しずつ底部が浸食され今回の出水で、最も水圧の高い中央部から崩壊に至ったものです。

◎復旧と対策

既設のチシャノ木堰（床止め）はその構造の大部分が流失し再利用しての復旧が困難であり、床固め機能復旧のため新たに改築します。

★用語の解説

①河川等災害復旧事業

国土交通大臣の管轄で管理する河川の区間内などにおいて、洪水、暴風、高潮、地震、その他の異常な天然現象により生じる災害によって必要を生じた事業であり、災害にかかった施設を原形に復旧することを原則としています。

②堤防法面

堤防の斜面になっている部分です。

③護岸

流水により堤防等が浸食されないように前面にコンクリートブロック又は石材などを用いて防護する施設です。なお、土羽護岸とは、土砂で堤防本体を增強し芝等の天然素材のみで覆い、堤防本体を被覆保護する施設です。